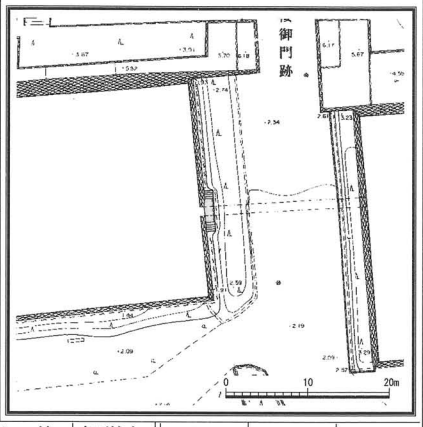
石垣項目別カルテ	
位置・規模等	・本石垣は桜ノ馬場南西部の(古)太鼓門台の東面石垣である。 ・高さは右端で約2.3m、全長は天端で約3.3mである。 ・勾配は88度と急である。
積み方石材等	・石の積み方は花崗岩の割石を用いた乱積である。右隅角は割石を用いて積み上げられている。左隅角は地盤にすり付けである。 ・石材はやや丸みのある方形で、規模は標準的なものが多い。 ・右隅角は完成度の高い算木積である。 ・転用石、刻印は見られない。 ・目地は見られない。
破損状況	・間詰石のヌケが多く見られる。
石垣の変遷	・生駒期から所在したと考えられる。

目地の状況	

史跡高松城跡　石垣調査

石垣番号	5058	地区	桜ノ馬場	石垣様式	積み方		切石	石垣位置
石垣部位	石段(後世のもの)				石積工法			
方　位	西				角石(算木)	左		
角の形状	左隅角	入				右		
	右隅角	入			その他特記			
上部構造物	-				石材		花崗岩	
転用石	無			刻　印			無	

破損状況と破損要因	良好	欠損	ズレ	ハラミ	ワレ	欠け剥離	陥没	崩落	間詰のヌケ	その他焼損等	軽微な改変	破損状態	影響の程度	危険度
	良好											a3	b2	D

石垣規模	天端長	基底部長	左端高	中央高	右端高	左角勾配	左端勾配	中央勾配	右端勾配	右角勾配
	4.91	2.88	-	1.08	-	-	-	-	-	-

築造時期	明治以降	改修		基底部	
修　理		文献資料			
発掘調査		その他の調査			
その他記述 1		その他記述 2			

破損現状

切石の石段、側面（堀側）は布積。後世のもの。

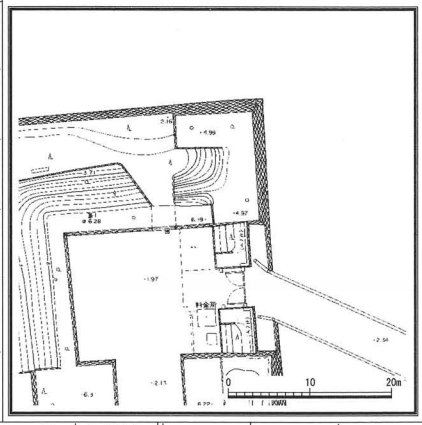
備　考	水門の階段, 水面～門高さ0.88m	調査年月日	平成16年12月 8日

石垣項目別カルテ	
位置・規模等	・本石垣は桜ノ馬場北部の内堀と中堀をつなぐ通水門へ下る石段である。
積み方石材等	・石の積み方は花崗岩の切石を用いた端正な石段である。 ・転用石、刻印は見られない。 ・目地は見られない。
破損状況	・破損は見られず、良好な状態である。
石垣の変遷	・絵図には描かれていないことから、明治以降に築造されたと考えられる。

目地の状況	

史跡高松城跡　石垣調査

石垣番号	5059	地区	桜ノ馬場	石垣様式	積み方		割石	石垣位置
石垣部位	その他				石積工法		乱積	
方　位	東				角石（算木）	左	算木にならない	
角の形状	左隅角	出				右	算木にならない	
	右隅角	出			その他特記			
上部構造物	－				石材		花崗岩	
転用石	無			刻　印			無	



破損状況と破損要因	良好	欠損	ズレ	ハラミ	ワレ	欠け剥離	陥没	崩落	間詰のヌケ	その他焼損等	軽微な改変	破損状態	影響の程度	危険度
		n1	s123									a2	b2	B

石垣規模	天端長	基底部長	左端高	中央高	右端高	左角勾配	左端勾配	中央勾配	右端勾配	右角勾配
	2.24	2.68	1.25	1.17	0.86	88	90	80	90	65

築造時期	新郭造築期	改修		基底部	
修　理		文献資料	『小神野夜話』『旧高松御城全図』		
発掘調査		その他の調査			
その他記述 1		その他記述 2			

破損現状

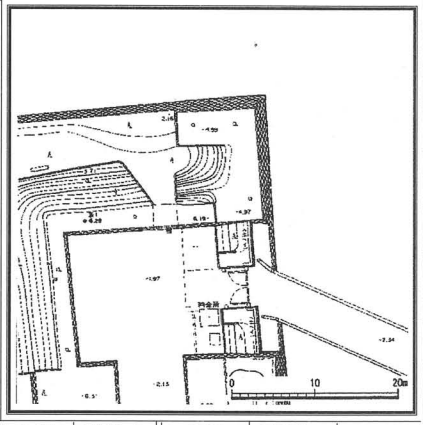
A．中央部全て動く
B．天端石１石欠損
C．間詰石のヌケ

備　考		調査年月日	平成16年12月 9日

石垣項目別カルテ	
位置・規模等	・本石垣は桜ノ馬場東部の桝形の北側に続く東面石垣である。 ・高さは中央部で約1.2m、全長は天端で約2.2mである。 ・勾配は80度と平均的である。
積み方石材等	・石の積み方は花崗岩の割石を用いた乱積である。両隅角とも割石を用いて積み上げられている。 ・石材は方形で、規模は大小混在する。 ・両隅角とも算木積になっていない。 ・転用石、刻印は見られない。 ・目地は見られない。
破損状況	・中央部にズレが見られ、間詰石のヌケも多く安定性に欠ける。
石垣の変遷	・『小神野夜話』等の記録から、新郭造築期に築造されたと考えられる。

目地の状況	

史跡高松城跡　石垣調査

石垣番号	5060	地区	桜ノ馬場	石垣様式	積み方		切石	石垣位置
石垣部位	門				石積工法		布積	
方　位	西				角石(算木)	左	切石	
角の形状	左隅角	出				右	切石	
	右隅角	出			その他特記			
上部構造物	旭門				石材		花崗岩	
転用石	無			刻　印			無	

破損状況と破損要因	良好	欠損	ズレ	ハラミ	ワレ	欠け剥離	陥没	崩落	間詰のヌケ	その他焼損等	軽微な改変	破損状態	影響の程度	危険度
	良好											a3	b3	D

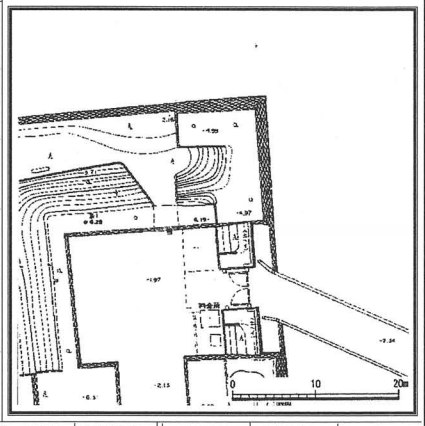
石垣規模	天端長	基底部長	左端高	中央高	右端高	左角勾配	左端勾配	中央勾配	右端勾配	右角勾配
	1.89	1.92	1.41	1.41	1.41	88	87	88	87	87

築造時期	新郭造築期	改修		基底部	
修　理		文献資料	『小神野夜話』『旧高松御城全図』		
発掘調査		その他の調査			
その他記述 1		その他記述 2			
破損現状					
備　考	料金所に接しており、写真撮影不可	調査年月日	平成16年12月 9日		

石垣項目別カルテ	
位置・規模等	・本石垣は桜ノ馬場東部の旭門南側台の西面石垣である。 ・高さは中央部で約1.4m、全長は天端で約1.9mである。 ・勾配は88度と急である。
積み方石材等	・石の積み方は花崗岩の切石を用いた布積である。両隅角とも切石を用いて積み上げられている。石材の表面には全面にノミ仕上げが見られる。 ・石材は方形で、規模はやや大ぶりなものでほぼ揃っている。 ・両隅角とも完成度の高い算木積である。 ・転用石、刻印は見られない。 ・目地は見られない。
破損状況	・破損は見られず、良好な状態である。
石垣の変遷	・『小神野夜話』等の記録から、新郭造築期に築造されたと考えられる。

目地の状況	

史跡高松城跡　石垣調査

石垣番号	5061	地区	桜ノ馬場	石垣様式	積み方		切石	石垣位置
石垣部位	門				石積工法		布積	
方　位	南				角石(算木)	左	切石	
角の形状	左隅角					右		
	右隅角	すりつけ			その他特記			
上部構造物	旭門				石材		花崗岩	
転用石	無			刻　印			無	

破損状況と破損要因	良好	欠損	ズレ	ハラミ	ワレ	欠け剥離	陥没	崩落	間詰のヌケ	その他焼損等	軽微な改変	破損状態	影響の程度	危険度
	良好													

石垣規模	天端長	基底部長	左端高	中央高	右端高	左角勾配	左端勾配	中央勾配	右端勾配	右角勾配
	1.73	1.73	1.41	0.74	0.39	88	89	88	87	-

築造時期	新郭造築期	改修		基底部	
修　理		文献資料	『小神野夜話』『旧高松御城全図』		
発掘調査		その他の調査			
その他記述 1		その他記述 2			

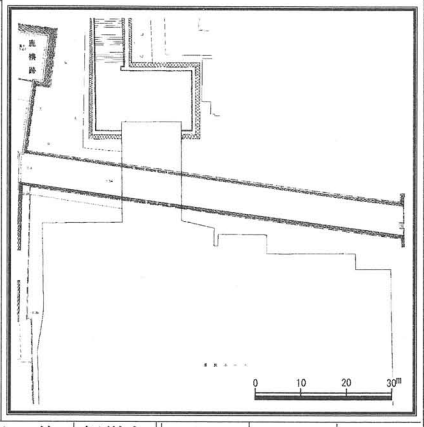
破損現状			
備　考	料金所に接しており、写真撮影不可	調査年月日	平成16年12月 9日

石垣項目別カルテ	
位置・規模等	・本石垣は桜ノ馬場東部の旭門南側台の南面石垣である。 ・高さは左端で約1.4m、全長は天端で約1.7mである。 ・勾配は88度と急である。
積み方石材等	・石の積み方は花崗岩の切石を用いた布積である。左隅角は切石を用いて積み上げられている。右隅角は地盤にすり付く。石材の表面には全面にノミ仕上げが見られる。 ・石材は方形で、規模はやや大ぶりなものでほぼ揃っている。 ・転用石、刻印は見られない。 ・目地は見られない。
破損状況	・破損は見られず、良好な状態である。
石垣の変遷	・『小神野夜話』等の記録から、新郭造築期に築造されたと考えられる。

目地の状況	

史跡高松城跡　石垣調査

石垣番号	6001	地区	東ノ丸	石垣様式	積み方	割石	石垣位置
石垣部位	内（多聞櫓台）				石積工法	乱積	
方　位	南				角石（算木） 左		
角の形状	左隅角	入			角石（算木） 右		
	右隅角	入			その他特記		
上部構造物	多聞櫓				石材	花崗岩	
転用石	無			刻　印		無	

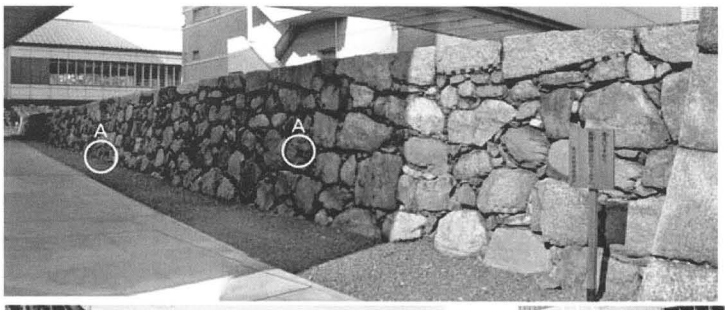


破損状況と破損要因	良好	欠損	ズレ	ハラミ	ワレ	欠け剥離	陥没	崩落	間詰のヌケ	その他焼損等	軽微な改変	破損状態	影響の程度	危険度
	良好				n23					r123		a3	b1	D

石垣規模	天端長	基底部長	左端高	中央高	右端高	左角勾配	左端勾配	中央勾配	右端勾配	右角勾配
	85.69	85	2.54	2.42	2.56	82	79	80	82	78

築造時期	新郭造築期	改修	有　基底部
修　理		文献資料	『小神野夜話』
発掘調査	『高松城東ノ丸跡発掘調査報告書』	その他の調査	
その他記述 1		その他記述 2	

破損現状



A．ワレ
B．間詰石ヌケ
C．焼け跡
D．ヒビ多い

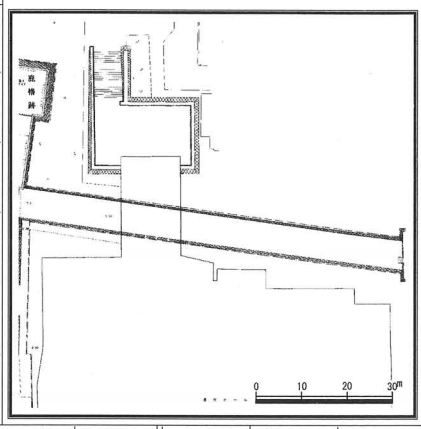
備　考		調査年月日	平成16年12月17日

石垣項目別カルテ	
位置・規模等	・本石垣は東ノ丸北部の南面内石垣である。 ・高さは中央部で約2.4m、全長は天端で約85.7mである。 ・勾配は80度と平均的である。
積み方石材等	・石の積み方は花崗岩の割石を用いた乱積である。両隅角とも入隅である。 ・石材は方形で角ばったものが多く、規模は大小混在する。 ・転用石、刻印は見られない。 ・目地は見られない。
破損状況	・焼損のある石材や築石のワレ、ヒビが多く見られるが、石垣面は変形がほとんどない。
石垣の変遷	・東ノ丸築造に伴い築造された石垣である。 ・ルートハンマーによる矢穴が見られる石材があることから、一部改変されていると考えられる。

目地の状況	

史跡高松城跡　石垣調査

石垣番号	6002	地区	東ノ丸	石垣様式	積み方	割石	石垣位置
石垣部位	外(海に面する)				石積工法	乱積	
方　位	北				角石(算木) 左		
角の形状	左隅角	入			角石(算木) 右		
	右隅角	入			その他特記		
上部構造物	多聞櫓				石材	花崗岩、安山岩	
転用石	無			刻　印		無	

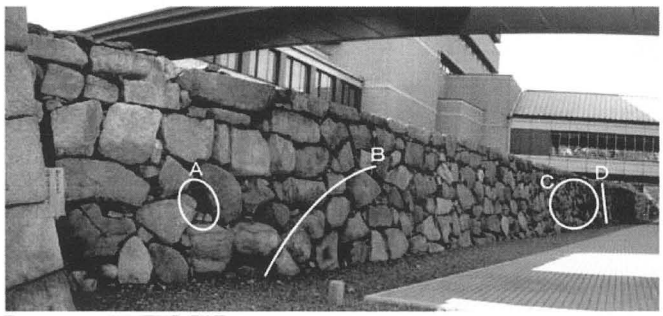


破損状況と破損要因	良好	欠損	ズレ	ハラミ	ワレ	欠け剥離	陥没	崩落	間詰のヌケ	その他焼損等	軽微な改変	破損状態	影響の程度	危険度
	良好				n2				s2	r123		a3	b1	D

石垣規模	天端長	基底部長	左端高	中央高	右端高	左角勾配	左端勾配	中央勾配	右端勾配	右角勾配
	84.41	83.55	2.98	3.21	3.31	79	84	85	72	78

築造時期	新郭造築期	改修		基底部	
修　理		文献資料	『小神野夜話』		
発掘調査		その他の調査			
その他記述 1		その他記述 2			

破損現状



A．間詰石のヌケ
B．目地
C．ワレ石
D．縦目地

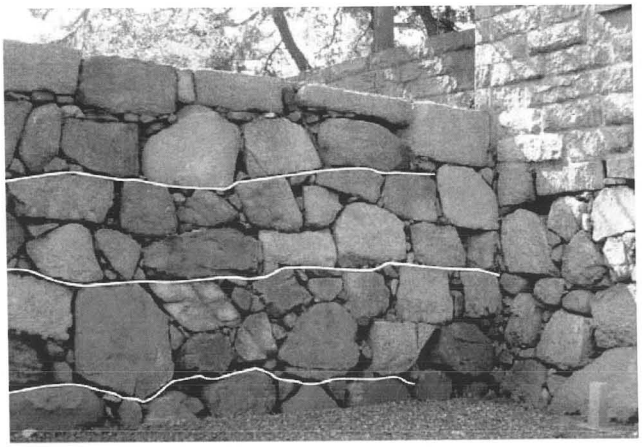
備　考		調査年月日	平成16年12月17日

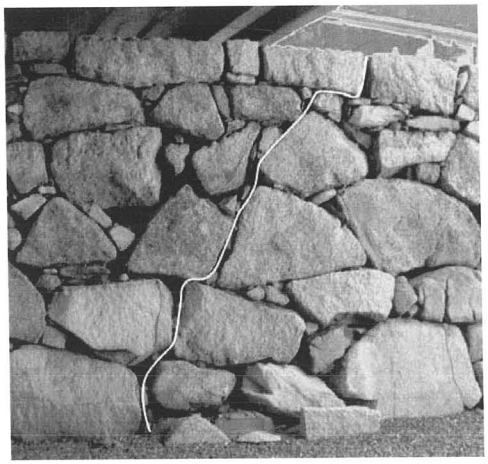
石垣項目別カルテ

位置・規模等	・本石垣は東ノ丸北部の北面石垣で旧海面外壁石垣である。 ・高さは中央部で約3.2mであるが、下部は埋め立てられており、本来はもっと高い石垣である。全長は天端で約84.4mである。 ・勾配は85度とやや急である。
積み方石材等	・石の積み方は花崗岩、安山岩の割石を用いた乱積である。両隅角とも入隅である。 ・石材は方形で角ばったものが多く、規模は大小混在する。 ・転用石、刻印は見られない。
破損状況	・焼損のある石材や築石のワレ、ヒビが多く見られるが、石垣面は変形がほとんどない。
石垣の変遷	・東ノ丸築造に伴い築造された石垣である。 ・一部改変されていると考えられる。

目地の状況

目地の位置、状況	目地の両側	石材種類	石材形状	石材規模	積み方	目地の発生事由
右隅角部近傍の石垣全面の横目地	全面	花崗岩	方形割石	大小混在	割石布積	布積の石積工法を用いた築造のため
石垣中央部の天端から左下がりに下部に至る目地	左側	花崗岩	方形割石	ほぼ同規模	割石乱積	左側石垣の積み直しか築造時のもの
	右側	花崗岩	方形割石		割石乱積	

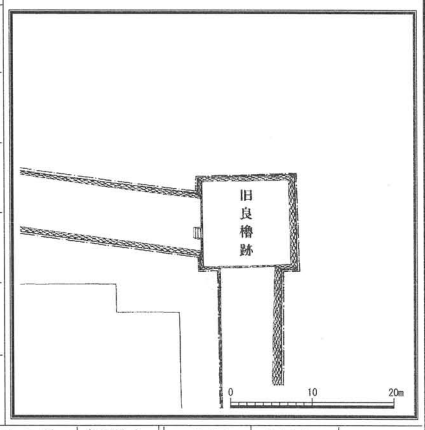




史跡高松城跡　石垣調査

石垣番号	6003	地区	東ノ丸	石垣様式	積み方	割石
石垣部位	外(海に面する)				石積工法	乱積
方　位	西				角石(算木) 左	切石
角の形状	左隅角	出			角石(算木) 右	切石
	右隅角	出			その他特記	ソリ
上部構造物	艮櫓				石材	花崗岩
転用石	無			刻　印		無

石垣位置

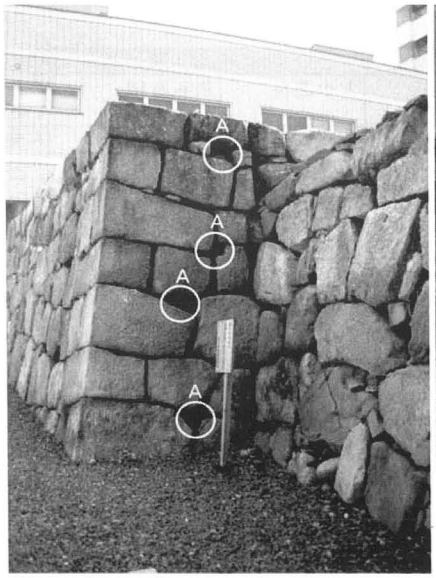


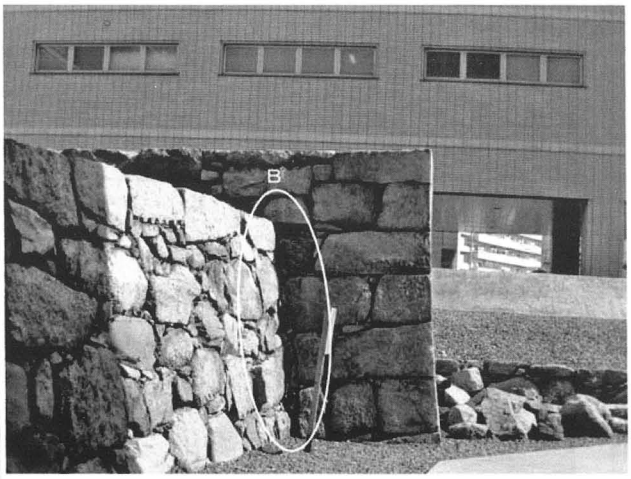
破損状況と破損要因	良好	欠損	ズレ	ハラミ	ワレ	欠け剥離	陥没	崩落	間詰のヌケ	その他焼損等	軽微な改変	破損状態	影響の程度	危険度
	良好								s2	r123		a3	b1	D

石垣規模	天端長	基底部長	左端高	中央高	右端高	左角勾配	左端勾配	中央勾配	右端勾配	右角勾配
	10.62	11.44	3.44	0.59	3.49	75	80	82	81	80

築造時期	新郭造築期	改修		基底部	
修　理		文献資料			
発掘調査		その他の調査			
その他記述 1		その他記述 2			

破損現状





A．間詰石のヌケ
B．入り角一体で積む

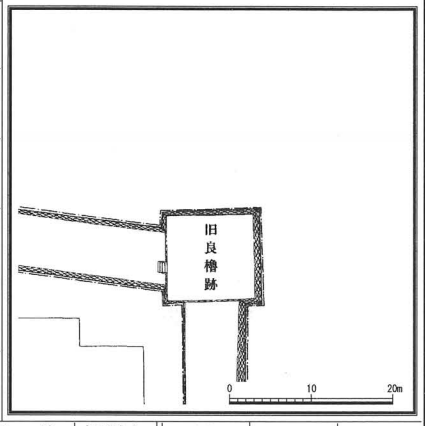
備　考		調査年月日	平成16年12月17日

石垣項目別カルテ	
位置・規模等	・本石垣は東ノ丸北東部の艮櫓台の西面石垣で、旧海面外壁石垣である。 ・高さは右端で約3.4mであるが、下部は埋め立てられており、本来はもっと高い石垣である。全長は天端で約10.6mである。 ・勾配は82度と平均的である。
積み方石材等	・石の積み方は花崗岩の割石を用いた乱積である。両隅角とも切石を用いて積み上げられている。間詰石が少ない丁寧な積み方である。 ・石材は方形で角ばったものが多く、規模は大小混在する。 ・両隅角とも完成度の高い算木積である。 ・転用石、刻印は見られない。 ・目地は見られない。
破損状況	・間詰石のヌケは見られるが、概ね良好な状態である。
石垣の変遷	・東ノ丸築造に伴い築造された石垣である。

目地の状況	

史跡高松城跡　石垣調査

石垣番号	6004	地区	東ノ丸	石垣様式	積み方		割石	石垣位置
石垣部位	外(海に面する)				石積工法		乱積	
方　位	北				角石(算木)	左	切石	
角の形状	左隅角	出				右	切石	
	右隅角	出			その他特記		ソリ	
上部構造物	艮櫓				石材		花崗岩	
転用石	無			刻　印			無	

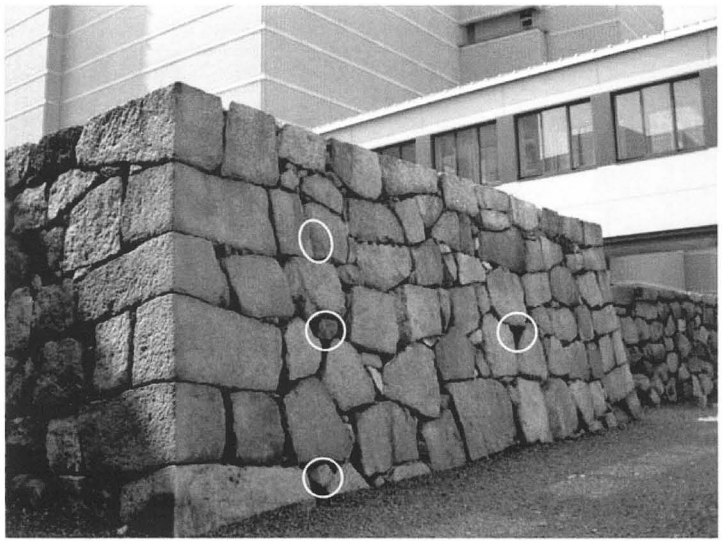


破損状況と破損要因	良好	欠損	ズレ	ハラミ	ワレ	欠け剥離	陥没	崩落	間詰のヌケ	その他焼損等	軽微な改変	破損状態	影響の程度	危険度
	良好								s2			a3	b1	D

石垣規模	天端長	基底部長	左端高	中央高	右端高	左角勾配	左端勾配	中央勾配	右端勾配	右角勾配
	10.74	11.8	3.81	3.75	3.77	76	80	80	79	75

築造時期	新郭造築期	改修		基底部	
修　理		文献資料	『小神野夜話』		
発掘調査	『香川県埋蔵文化財調査年報　平成6年度』	その他の調査			
その他記述 1		その他記述 2			

破損現状



間詰石のズレ

備　考		調査年月日	平成16年12月17日

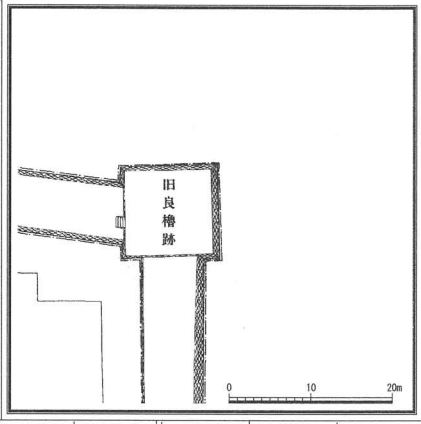
石垣項目別カルテ	
位置・規模等	・本石垣は東ノ丸北部の艮櫓台の北面石垣で、旧海面外壁石垣である。 ・高さは中央部で約3.8mであるが、下部は埋め立てられており、本来はもっと高い石垣である。全長は天端で約10.7mである。 ・勾配は80度と平均的である。
積み方石材等	・石の積み方は花崗岩の割石を用いた乱積である。両隅角とも切石を用いて積み上げられている。間詰石が少ない丁寧な積み方である。 ・石材は方形で角ばったものが多く、規模は標準的なものでほぼ揃っている。 ・両隅角とも完成度の高い算木積である。 ・転用石、刻印は見られない。 ・目地は見られない。
破損状況	・間詰石のヌケは見られるが、概ね良好な状態である。
石垣の変遷	・東ノ丸築造に伴い築造された石垣である。

目地の状況	

史跡高松城跡　石垣調査

石垣番号	6005	地区	東ノ丸	石垣様式	積み方		割石
石垣部位	外(海に面する)				石積工法		乱積
方　位	東				角石(算木)	左	切石
角の形状	左隅角	出				右	切石
	右隅角	出			その他特記		ソリ
上部構造物	艮櫓				石材		花崗岩
転用石	無			刻　印			無

石垣位置



破損状況と破損要因	良好	欠損	ズレ	ハラミ	ワレ	欠け剥離	陥没	崩落	間詰のヌケ	その他焼損等	軽微な改変	破損状態	影響の程度	危険度
	良好								s2			a3	b1	D

石垣規模	天端長	基底部長	左端高	中央高	右端高	左角勾配	左端勾配	中央勾配	右端勾配	右角勾配
	10.6	11.74	3.77	3.73	3.84	78	81	81	81	76

築造時期	新郭造築期	改修		基底部	
修　理		文献資料	『小神野夜話』、明治期写真		
発掘調査	『香川県埋蔵文化財発掘調査年報　平成6年度』	その他の調査			
その他記述 1		その他記述 2			

破損現状

間詰石のヌケ

備　考		調査年月日	平成16年12月17日

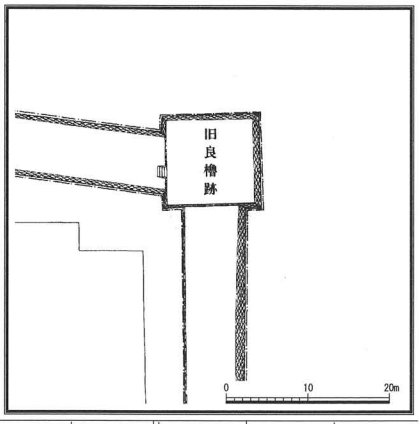
石垣項目別カルテ	
位置・規模等	・本石垣は東ノ丸の艮櫓台の東面石垣で、旧海面外壁石垣である。 ・高さは中央部で約3.7mであるが、下部は埋め立てられており、本来はもっと高い石垣である。全長は天端で約10.6mである。 ・勾配は81度と平均的である。
積み方石材等	・石の積み方は花崗岩の割石を用いた乱積である。両隅角とも切石を用いて積み上げられている。間詰石が少ない丁寧な積み方である。 ・石材は方形で角ばったものが多く、規模は標準的なものでほぼ揃っている。 ・両隅角とも完成度の高い算木積である。 ・転用石、刻印は見られない。 ・目地は見られない。
破損状況	・間詰石のヌケは見られるが、概ね良好な状態である。
石垣の変遷	・東ノ丸築造に伴い、築造された石垣である。

目地の状況	

史跡高松城跡　石垣調査

石垣番号	6006	地区	東ノ丸	石垣様式	積み方		割石
石垣部位	外(海に面する)				石積工法		乱積
方　位	南				角石(算木)	左	切石
角の形状	左隅角	出				右	切石
	右隅角	出			その他特記		ソリ
上部構造物	艮櫓				石材		花崗岩
転用石	無			刻　印			無

石垣位置

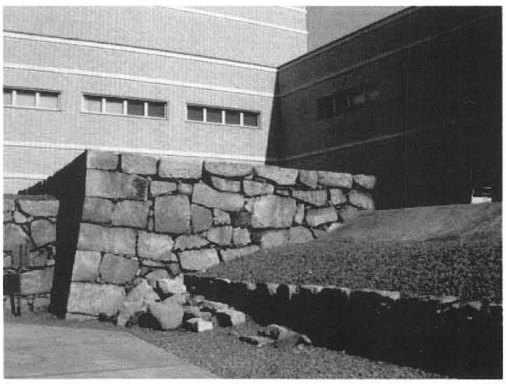


破損状況と破損要因	良好	欠損	ズレ	ハラミ	ワレ	欠け剥離	陥没	崩落	間詰のヌケ	その他焼損等	軽微な改変	破損状態	影響の程度	危険度
	良好								s2	r3		a3	b1	D

石垣規模	天端長	基底部長	左端高	中央高	右端高	左角勾配	左端勾配	中央勾配	右端勾配	右角勾配
	10.84	11.76	3.48	1.84	3.73	80	86	88	80	78

築造時期	新郭造築期	改修		基底部	地山
修　理		文献資料	『小神野夜話』		
発掘調査	『高松城東ノ丸跡発掘調査報告書』	その他の調査			
その他記述 1		その他記述 2			

破損現状



間詰石のヌケ

備　考		調査年月日	平成16年12月17日

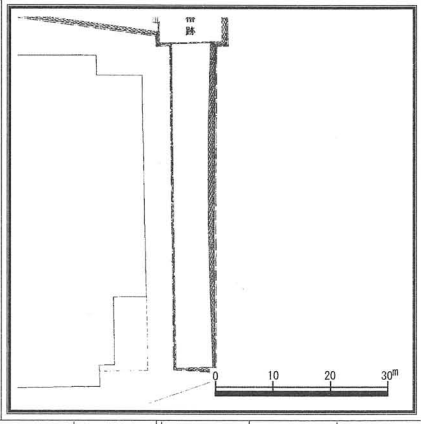
石垣項目別カルテ

位置・規模等	・本石垣は東ノ丸北東部の艮櫓台の南面石垣である。 ・高さは右端で約3.7mであるが、旧海面側の下部は埋め立てられており、本来はもっと高い石垣である。全長は天端で約10.8mである。 ・勾配は88度と急である。
積み方石材等	・石の積み方は花崗岩の割石を用いた乱積である。両隅角とも切石を用いて積み上げられている。間詰石が少ない丁寧な積み方である。 ・石材は方形で角ばったものが多く、規模は標準的なものでほぼ揃っている。他の面に比べ、大石材が多く用いられている。 ・転用石、刻印は見られない。 ・目地は見られない。
破損状況	・間詰石のヌケは見られるが、概ね良好な状態である。
石垣の変遷	・東ノ丸築造に伴い、築造された石垣である。

目地の状況	

史跡高松城跡　石垣調査

石垣番号	6007	地区	東ノ丸	石垣様式	積み方		割石	石垣位置
石垣部位	外(中堀に面する)				石積工法		乱積（一部谷積）	
方　位	東				角石(算木)	左	切石	
角の形状	左隅角	出				右		
	右隅角	入			その他特記			
上部構造物	塀				石材		花崗岩、安山岩	
転用石	無			刻　印			無	



破損状況と破損要因	良好	欠損	ズレ	ハラミ	ワレ	欠け剥離	陥没	崩落	間詰のヌケ	その他焼損等	軽微な改変	破損状態	影響の程度	危険度
					n2					r2	有	a3	b1	D

石垣規模	天端長	基底部長	左端高	中央高	右端高	左角勾配	左端勾配	中央勾配	右端勾配	右角勾配
	56.78	56.17	2.22	2.32	2.15	75	77	78	75	70

築造時期	新郭造築期	改修	有	基底部
修　理		文献資料	『小神野夜話』	
発掘調査		その他の調査		
その他記述 1		その他記述 2		

破損現状

谷積
モルタル目地
中央部下の石劣化

※全て後世のものと思われる

備　考		調査年月日	平成16年12月17日

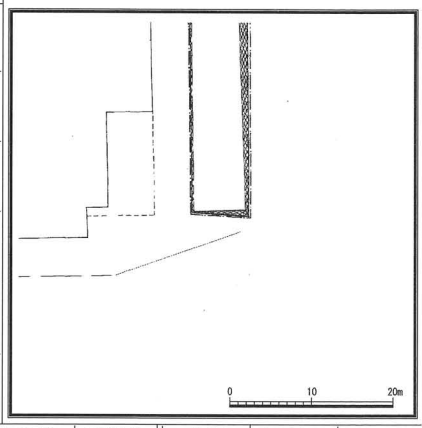
石垣項目別カルテ

位置・規模等	・本石垣は東ノ丸東部の東面石垣で、埋め立てられた中堀に面する。 ・高さは中央部で約2.3mであるが、下部は埋め立てられており、本来はもっと高い石垣である。全長は天端で約56.8mである。 ・勾配は78度と平均的である。
積み方石材等	・石の積み方は花崗岩、安山岩の割石を用いた乱積であるが、一部谷積が見られる。左隅角は切石を用いて積み上げられている。右隅角は入隅である。 ・石材は方形でやや丸みのあるものが多く、規模は標準的なものや小ぶりなものがある。 ・左隅角は完成度の低い算木積である。 ・転用石、刻印は見られない。 ・目地は見られない。
破損状況	・石材のワレが見られ、また、焼損を受け劣化した石材が多く見られる。
石垣の変遷	・東ノ丸築造に伴い築造された石垣である。 ・全面にわたって明治以降の改変を受けていると考えられる。

目地の状況	

史跡高松城跡　石垣調査

石垣番号	6008	地区	東ノ丸	石垣様式	積み方		割石	石垣位置
石垣部位	門				石積工法		乱積、谷積	
方　位	南				角石(算木)	左	切石	
角の形状	左隅角	出				右	切石	
	右隅角	出			その他特記			
上部構造物	門				石材		花崗岩、安山岩	
転用石	無			刻　印			無	



破損状況と破損要因	良好	欠損	ズレ	ハラミ	ワレ	欠け剥離	陥没	崩落	間詰のヌケ	その他焼損等	軽微な改変	破損状態	影響の程度	危険度
	良好									r2	有	a3	b1	D

石垣規模	天端長	基底部長	左端高	中央高	右端高	左角勾配	左端勾配	中央勾配	右端勾配	右角勾配
	6.59	7.12	1	1.53	2.15	88	90	87	82	75

築造時期	新郭造築期・明治以降	改修		基底部	
修　理		文献資料	『小神野夜話』『旧高松御城全図』		
発掘調査		その他の調査			
その他記述 1		その他記述 2			

破損現状

A．谷積
B．モルタル目地

※石垣分断に伴う後世のもの

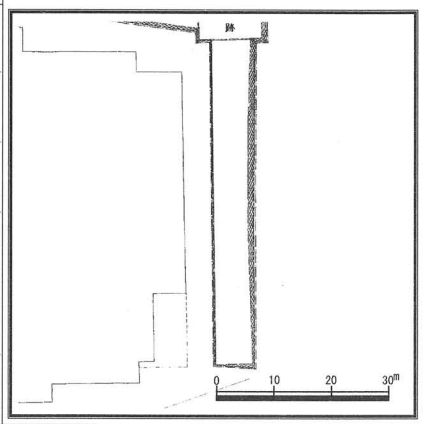
備　考		調査年月日	平成16年12月17日

石垣項目別カルテ	
位置・規模等	・本石垣は東ノ丸東部の南面石垣で、門の袖石垣と考えられる。 ・高さは右端で約2.2m、全長は天端で約6.6mである。 ・勾配は87度と急である。
積み方石材等	・石の積み方は花崗岩、安山岩の割石を用いた乱積であるが、一部谷積が見られる。両隅角とも切石を用いて積み上げられている。 ・石材は方形で角張ったものが多く、規模はやや小ぶりなものでほぼ揃っているが、一部大石材が見られる。 ・両隅角とも完成度の低い算木積である。 ・転用石、刻印は見られない。 ・目地は見られない。
破損状況	・目地にモルタルを詰めている。
石垣の変遷	・『旧高松御城全図』によると同位置に門が描かれており、東ノ丸築造に伴い築造された石垣と考えられる。 ・現在の石垣は明治以降に積み直されたものと考えられる。

目地の状況	

史跡高松城跡　石垣調査

石垣番号	6009	地区	東ノ丸	石垣様式	積み方	野面、割石	石垣位置
石垣部位	内(多聞塀台)				石積工法	乱積	
方　位	西				角石(算木) 左		
角の形状	左隅角	入			角石(算木) 右	切石	
	右隅角	出			その他特記		
上部構造物	-				石材	花崗岩、安山岩	
転用石	無			刻　印		無	



破損状況と破損要因	良好	欠損	ズレ	ハラミ	ワレ	欠け剥離	陥没	崩落	間詰のヌケ	その他焼損等	軽微な改変	破損状態	影響の程度	危険度
	良好		n1							r2		a3	b3	D

石垣規模	天端長	基底部長	左端高	中央高	右端高	左角勾配	左端勾配	中央勾配	右端勾配	右角勾配
	55.9	55.9	0.38	0.54	1.01	-	85	82	84	88

築造時期	新郭造築期	改修	有	基底部	地山
修　理		文献資料	『小神野夜話』		
発掘調査	『高松城東ノ丸跡発掘調査報告書』	その他の調査			
その他記述 1		その他記述 2			

破損現状

天端石のズレ
※間詰石のヌケが多い
　天端石積み直している

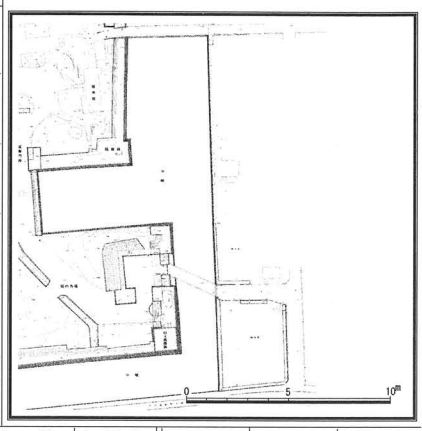
備　考		調査年月日	平成16年12月17日

石垣項目別カルテ	
位置・規模等	・本石垣は東ノ丸東部の西面内石垣である。 ・高さは中央部で約0.5m、全長は天端で約55.9mである。 ・勾配は82度と平均的である。
積み方石材等	・石の積み方は花崗岩、安山岩の野面石や割石を用いた乱積である。右隅角は切石を用いて積み上げられている。左隅角は入隅である。天端石の積み直しが見られる。 ・石材は方形でやや丸みのあるものが多く、規模は標準的なものでほぼ揃っているが一部小石材が見られる。 ・右隅角は完成度の低い算木積である。 ・転用石、刻印は見られない。 ・目地は見られない。
破損状況	・石材のズレが見られるが、概ね良好である。
石垣の変遷	・東ノ丸築造に伴い築造された石垣と考えられる。

目地の状況	

史跡高松城跡　石垣調査

石垣番号	6010	地区	東ノ丸	石垣様式	積み方	野面、割石、切石	石垣位置
石垣部位	外(中堀に面する)				石積工法	乱積、谷積(一部)	
方　位	西				角石(算木) 左		
角の形状	左隅角	入			角石(算木) 右		
	右隅角	入			その他特記		
上部構造物	-				石材	花崗岩、安山岩	
転用石	無			刻　印		無	

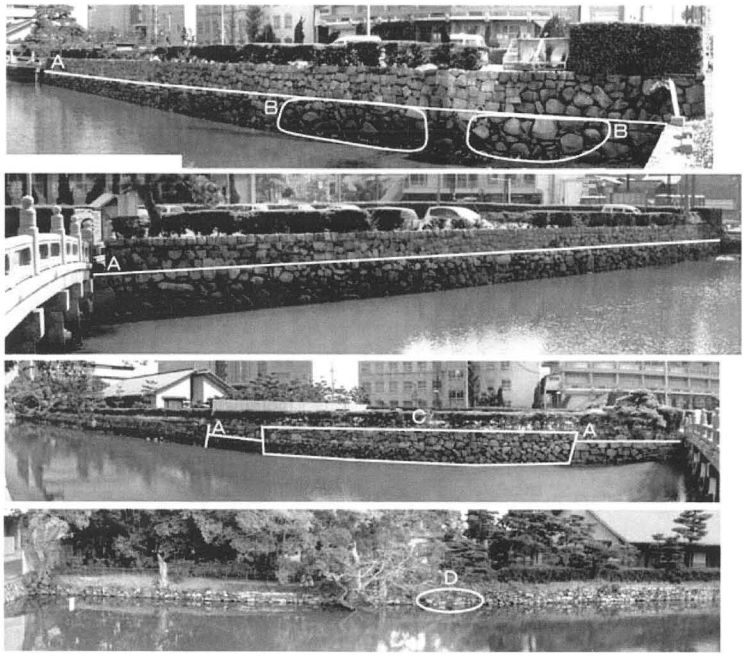


破損状況と破損要因	良好	欠損	ズレ	ハラミ	ワレ	欠け剥離	陥没	崩落	間詰のヌケ	その他焼損等	軽微な改変	破損状態	影響の程度	危険度
				s2					w3		有	a2	b2	B

石垣規模	天端長	基底部長	左端高	中央高	右端高	左角勾配	左端勾配	中央勾配	右端勾配	右角勾配
	179.02	178.51	1.86	2.05	2.41	72	85	90	-	-

築造時期	生駒期・新郭造築期	改修	有	基底部
修　理		文献資料	『小神野夜話』『旧高松御城全図』、明治期写真	
発掘調査		その他の調査		
その他記述 1		その他記述 2		

破損現状



A．積み足しライン
B．ハラミ
C．谷積
D．モルタル詰め

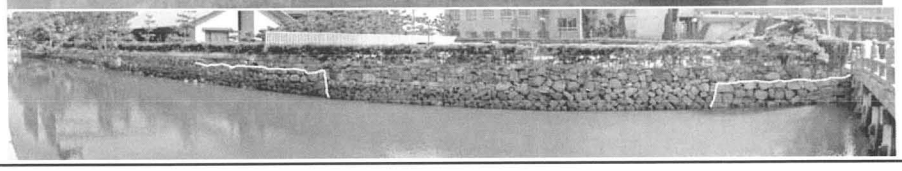
備　考		調査年月日	平成16年12月 9日

石垣項目別カルテ

位置・規模等	・本石垣は東ノ丸西部の東面石垣で、中堀に面する。 ・高さは中央部で約2.1m、全長は天端で約179mである。 ・勾配は90度と急である。
積み方石材等	・石の積み方は花崗岩、安山岩の割石や野面石を用いた乱積である。旭橋付近およびその南側一帯の上部4段は切石の谷積となっている。両隅角とも入隅である。 ・石材は上部に方形のものが多く、下部は方形でやや丸みのあるものが多い。規模は標準的なものが多いが、一部大小混在する。 ・転用石、刻印は見られない。
破損状況	・水際は欠損が多く、モルタル詰めによって補強している。
石垣の変遷	・生駒期から所在した石垣と考えられるが、東ノ丸築造に伴い、石垣中央部を開削し、中堀が造られている。 ・中堀部分の石垣は明治以降に埋め立てられている。 ・石垣上部は明治以降の積み足しである。

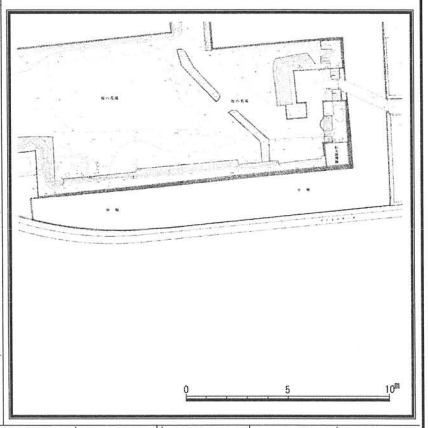
目地の状況

目地の位置、状況	目地の両側	石材種類	石材形状	石材規模	積み方	目地の発生事由
南半部天端から4、5石下に通る横目地	上方	花崗岩	方形切石	下方の石材はやや小ぶり	切石布積	上方部の積み足し
	下方	花崗岩	方形割石丸み		割石乱積	
旭橋北側5m地点から約20m間の2本の縦目地	目地内側	花崗岩	方形切石	内側が小さい	割石谷積	中堀埋立
	目地外側	花崗岩	方形割石丸み		割石乱積	
旭橋右側近傍の中段から下部に至る谷形の目地	谷形中側	花崗岩	方形割石丸み	ほぼ同規模	割石乱積	谷形部の積み直し
	谷形外側	花崗岩	方形割石丸み		割石乱積	
北半部天端から1、2石下に通る横目地	上方	花崗岩	方形切石	下方の石材はやや小ぶり	切石布積	上方部の積み直し
	下方	花崗岩	方形割石丸み		割石乱積	



史跡高松城跡　石垣調査

石垣番号	6011	地区	外曲輪	石垣様式	積み方	野面、切石	石垣位置
石垣部位	外(中堀に面する)				石積工法	乱積(左)、谷積(右)	
方　位	北				角石(算木) 左		
角の形状	左隅角	入			角石(算木) 右		
	右隅角	入			その他特記		
上部構造物	-				石材	花崗岩、安山岩	
転用石	無			刻　印		無	

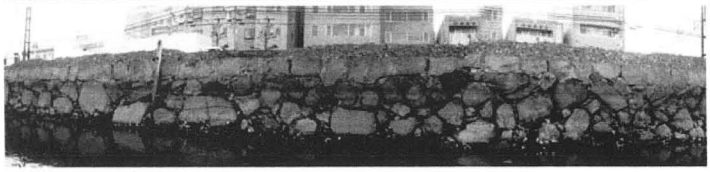


破損状況と破損要因	良好	欠損	ズレ	ハラミ	ワレ	欠け剥離	陥没	崩落	間詰のヌケ	その他焼損等	軽微な改変	破損状態	影響の程度	危険度
		n1							w3		有	a2	b2	B

石垣規模		天端長	基底部長	左端高	中央高	右端高	左角勾配	左端勾配	中央勾配	右端勾配	右角勾配
		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

築造時期	生駒期・明治以降	改修	有	基底部
修　理		文献資料		
発掘調査		その他の調査		
その他記述 1		その他記述 2		

破損現状



天端一石切石でやりかえている
他は野面石、目地モルタル
水際抜けている石がある
右側アール部分全て切石谷積、鉄道に伴うものと思われる

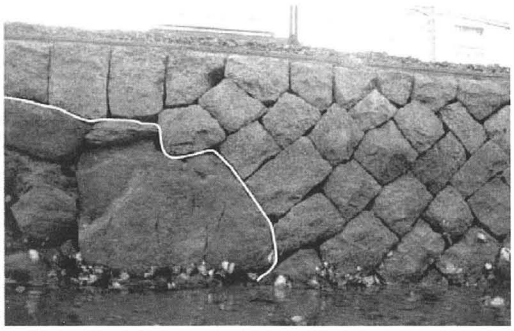
備　考	線路沿いの為測量不可	調査年月日	平成16年12月 9日

石垣項目別カルテ

位置・規模等	・本石垣は外曲輪北部の北面石垣で、中堀に面する。 ・線路沿いのため、規模・勾配は測定していない。
積み方石材等	・石の積み方は花崗岩、安山岩の野面石を用いた乱積であるが、上部は割石や野面石を用いた谷積も見られる。両隅角とも入隅である。 ・石材は上部に方形のものが多く、下部は方形でやや丸みのあるものが多い。規模は標準的なものが多いが、一部大小混在する。 ・転用石、刻印は見られない。
破損状況	・水際での間詰石のヌケが多く見られる。
石垣の変遷	・生駒期から所在した石垣と考えられる。 ・右端の曲線部分は明治以降のものである。 ・石垣上方は何回かの積み直しが行われていると考えられる。

目地の状況

目地の位置、状況	目地の両側	石材種類	石材形状	石材規模	積み方	目地の発生事由
右隅角部近傍の目地	左側・下方	花崗岩	方形割石	左側・下方の石材は小ぶり	切石谷積	右側・上方部の積み直し
	右側・上方	花崗岩	方形切石		割石乱積	
笠石下の目地	上方	花崗岩	方形切石	笠石の石材はやや小ぶり	切石布積	笠石の積み上げ
	下方	花崗岩	方形割石丸み		割石乱積	
石垣下部の横目地	上方	花崗岩	方形割石丸み	下方の石材はやや小ぶり	割石乱積	上方部の積み直し
	下方	花崗岩	方形割石丸み		割石乱積	



報告書抄録

ふりがな	いしがききそちょうさほうこくしょ
書名	石垣基礎調査報告書
副書名	史跡高松城跡整備報告書
巻次	第2冊
シリーズ名	高松市埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	第109集
編著者名	大嶋 和則
編集機関	高松市教育委員会
所在地	〒760－8571　香川県高松市番町一丁目8番15号　TEL087－839－2636
発行年月日	西暦2008年2月29日

所収遺跡名（ふりがな）	所在地（しょざいち）	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積	調査原因
史跡高松城跡（しせきたかまつじょうあと）	香川県（かがわけん） 高松市（たかまつし） 玉藻町（たまもちょう）	37201		34° 21′ 00″	134° 03′ 01″	2005.7.20 ～ 2007.3.30	－	基礎調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
史跡高松城跡	城郭	近世	石垣		

要約

高松城は天正16年（1588）に生駒親正によって築城された海城である。生駒氏の後，寛永19年（1642）に松平氏の居城となり，明治維新をむかえている。石垣は野面石の乱積みを主体とするが，割石・切石を用いた部分も確認できる。石垣は築城当初に築かれたものが多いと考えられるが，正保～寛文期にわたり大部分が修理され，寛文～延宝期に東ノ丸・北ノ丸などの新造が行われており，概ね生駒期・松平初期・新郭造築期の3時期に大別できる。また，各所に破損石垣も見られ，その要因は石垣の構造上の問題だけではなく，樹木の影響や被熱などが考えられる。また，海城であることから，潮の干満作用によって海水面が移動することが，石垣の背面盛土の流出を招くことも要因の1つと予想される。

史跡高松城跡整備工事報告書

第2冊

石垣基礎調査報告書

平成20年2月29日

編　集　高松市教育委員会
　　高松市番町一丁目8番15号
発　行　高松市
　　高松市教育委員会
印　刷　有限会社中央ファイリング